

国営飛鳥歴史公園キトラ古墳周辺地区体験的歴史学習基本構想検討委員会

第 1 回委員会 議事録

■日時：平成 22 年 2 月 18 日（木） 15:00～17:00

■場所：明日香村健康福祉センター 「たちばな」 会議室 1・2

■出席者：

<委員>

久美子	歴史街道推進協議会メインルート事業部課長	
兼勝	京都橘大学名誉教授	
直之	近畿日本鉄道株式会社副社長	
邦彦	神戸山手大学現代社会学部教授	(ご欠席)
正史	東京学芸大学文化財科学科特任教授	
義清	明日香村長	
信正	近畿大学農学部教授	
侃三	東京農業大学名誉教授	
昇	大阪府立大学大学院生命環境科学研究科教授	(ご欠席)
嘉六	独立行政法人国立文化財機構九州国立博物館長	
秀夫	阪南大学国際コミュニケーション学部教授	

(敬称略、五十音順)

<協力委員>

徹	文化庁文化財部古墳壁画室古墳壁面对策調査官 (代理出席者：井上 敏昭 古墳壁画室長補佐)	(代理出席)
真二	独立行政法人奈良文化財研究所飛鳥資料館学芸室長	
勝彦	奈良県地域振興部地域づくり支援課長 (代理出席者：梅野 雅昭 地域づくり支援課長補佐)	(代理出席)
晋一	奈良県教育委員会文化財保存課主幹	
清秀	奈良県立橿原考古学研究所埋蔵文化財部長	
尚	明日香村政策調整課長	
敬教	明日香村教育委員会文化財課長	
文秀	高取町企画財政課長	
正美	財団法人飛鳥保存財団事務局長	
幸夫	国土交通省近畿地方整備局建政部公園調整官	

<事務局>

国土交通省 近畿地方整備局 国営飛鳥歴史公園事務所

所長 舟久保 敏

調査・品質確保課 課長 三井 雄一郎

■議事次第

1. 開会
2. 挨拶
3. 議事の公開について
4. 趣旨説明
5. 設置要領（案）の承認、委員長選出
6. 議事
 - (1) 基本計画および基本計画策定以降の検討について（報告）
 - (2) 体験的歴史学習のテーマ・内容について（討議）
 - (3) その他
7. 閉会

■議事録

1. 開会
2. 挨拶

（舟久保所長）

各委員のみなさまにおかれましては、年度末の業務ご多忙な折ご出席いただきありがとうございます。また、委員就任のお願いにあたりご快諾いただきましたことを厚くお礼申し上げます。また、開催前に視察にご参加いただき、お疲れ様でした。

国営飛鳥歴史公園は、飛鳥地方の文化財およびそれを取り巻く歴史的風土の保存活用を目的とし、国土交通省が整備管理を行っている公園です。現在5地区を事業化しており、そのうち4地区は概成開園しております。本日の委員会の議論の対象となりますキトラ古墳周辺地区については未開園、整備中の状況にあります。キトラ古墳周辺地区では平成13年3月に閣議決定をし、その後、公園基本計画の策定や都市計画決定、用地買収を進め、昨年秋に公園施設の造成工事に着手しました。ひとえに地元のみなさまのご理解と関係者のみなさまのご協力の賜物であると深く感謝しております。

本地区では、他の4地区と異なり、飛鳥地方の歴史文化について各種の体験を通じ楽しく学ぶことのできる体験的歴史学習の拠点となるような整備を行うことにしています。しかしながら、体験的歴史学習は基本計画に位置づけていますが、どのようなものであるか、何を行うものであるかといった内容の詳細につきましては、基本計画の策定時に行った検討以降、公に示せるよう取りまとめたものがまだございません。現在、平成28年度の開園を目処に整備を進めており、その実現に向け、本地区の最も重要な機能である体験的歴史学習について有識者および関係機関のご意見をいただきながら実際どのようなことをするのかという内容の具体化を図り、今後の施設整備やソフト作成に結びつくよう委員会を設置させていただきました。

本委員会におきましては、後ほど詳細にご説明させていただきますが、体験的歴史学習について、まずテーマと展開方針を検討し、続けてより具体的な内容とそのために必要な施設の整備と管理運営のあり方についてご議論いただければと考えております。本日の委員会では、公園基本計画策定以降に事務局で検討を進めてきた内容や、体験的歴史学習の内容の具体化にあたり関係すると思われる動きをご紹介させていただき、それをもとに体験的歴史学習としてど

のような取組みを行っていくことが適当かどうかについてご議論いただければと思います。この飛鳥地域を住んでいる方々が誇りを持ち、訪れる方が憩い楽しみながら理解を深めていく形で後世に継承していけるものにしていきたいと考えておりますので、忌憚のないご意見をいただければと思います。本日はよろしくようお願い申し上げます。

3. 議事の公開について

(事務局より資料2についての説明があり、全会一致で承認された)

4. 趣旨説明

(事務局より資料3について説明)

5. 設置要領(案)の承認、委員長選出

(事務局より設置要領(案)の説明があり、全会一致で承認され、同要領が平成22年2月18日より施行された。事務局より委員長について平野委員を委員長とすることが提案され、全会一致で承認された。平野委員長より三輪委員が副委員長に指名された。)

6. 議事

(平野委員長)

基本計画の策定に携わらせていただいたこともあり、このたび委員長をさせていただくことになりましたが、キトラ古墳周辺地区はキトラ古墳の扱いと共に大変難しい問題を抱えた歴史公園であると思っています。この公園を生かすには、体験的歴史学習をいかに行うかで決まると思います。もちろん遺跡そのものも大変重要なものですが、明日香の中でもやや南に位置し、来訪者のことを考えますと体験的歴史学習が大変重要なテーマになってくるかと思っています。

本日は第1回目になりますので、事務局から「基本計画・基本計画策定以降の検討」についてご報告頂き、それを踏まえて「体験的歴史学習の展開案」について討議を行いたいと思っておりますので、どうぞよろしくお願いいたします。

(1) 基本計画および基本計画策定以降の検討について(報告)

(事務局より資料4～7について説明資料に沿って説明)

(平野委員長)

檜前の発掘調査で発掘されたものは、従来の基本計画では想定されていなかったわけですが、発掘調査に伴って、特に計画そのものに支障が出ると考えられるところがあればご指摘いただけますか。

(三井課長)

大きく変わるところはないかと思っています。各部分で、例えば、園路の配置や施設配置の変更は出てくるかと思いますが、大きく支障が出るということはないかと思っています。むしろ出てきたものを踏まえて生かすという方向で考えています。

(平野委員長)

今日、視察の中で大壁跡がこのあたりで検出されたという話がありました。あの位置は従来の計画ですと、図面では生活体験ゾーンと書かれている場所でしょうか。

(三井課長)

はい、その通りです。図面では維持管理施設が少しかかっているように見えますが、そこまで大きくかかることはないと思います。

(平野委員長)

従来の基本計画を踏まえながらも、新しい情報を入れて変わっていくことになろうかと思えます。

(八丁委員)

導入機能に歴史的風土の保全・創出機能が入っていますが、図面を見ると山が多くあります。図面では山の木の色が様々に付けられていますが、それぞれ植栽を変えていく計画になっていると考えてよろしいでしょうか。

(三井課長)

大きく変えるということではありませんが、万葉植物等の植栽や、現在木が混み合っている場所の間伐をすることはあるかと思えます。図面の上では色が異なっていますが、植栽を大きく変えるというわけではございません。

(八丁委員)

例えば、スギ・ヒノキが植わっている場所を伐って、落葉樹に変えていく話はあるのでしょうか。

(舟久保所長)

おっしゃられる通り、概成4地区も含めて飛鳥らしい里山を創出していこうということで、森林部分で放置されているスギ・ヒノキ林については択伐し落葉広葉樹を入れていく取組みを行っていますので、キトラ古墳周辺地区についても同じような取組みを行っていくことになるかと思えます。

(吉兼委員)

ハードよりソフト、運用の話が大事かと思えます。キトラ古墳周辺地区の土地は買収が終わっていますので国有地になるかと思えますが、芝生公園にだけはしてほしくないというのが皆さんのご意見かと思えます。例えば、里山地区等で田や畑を作る場合に、地元の方やボランティア意識を強く持った人がされて、なおかつ収穫されたものがどこかに持っていかれるのではなく、地域の方々がそれを利用し活用できるような、運用方面でぜひ「飛鳥方式」というよう

なものを作り出していただきたい。国有化すると次々に利用しづらい公園になるということを飛鳥から克服していただきたいと思っていますが、そのあたりはいかがでしょうか。

(平野委員長)

おそらくそのような方向で検討されていくことかと思いますが、今のご指摘は2番目の議題に深く関わる話かと思っていますので、詳しくは後ほどにしたいと思っています。

(猪熊委員)

檜前は雄略天皇7年(475)以来渡来人が居留した地点として有名であります。歴史的体験と言われていますが、この檜前の地において歴史的体験ということになると渡来人と関わりがあったことが強調されるべきだと思います。しかしながら、大壁建物の場所に管理維持の施設が建てられるなど全くそれを無視した計画かと思っています。従来この基本的な計画ができたときには、渡来人の居留地が何処だったのか分かりませんでした。高取町の方にオンドルや渡来人の住居跡に特徴ある大壁建物がありまして檜隈の地はもっと南だったのではないかという考えもあったのですが、最近の調査により、この周辺が渡来人の居留地だったと明確になってきたのであります。先ほども、「大壁建物を復元されるのですか」と聞きましたら、「そういう考えはありません」と言われました。おそらくキトラ古墳を中心にして墓地としての性格を強調されるのですが、ここは墓地ではなかったわけです。

もう一つ、高松塚地区でもあったことでありますが、中心部に檜隈寺があります。檜隈寺は文化庁の管轄だからこれは整備の対象外になっています。高松塚においてもここにおいても、文化庁と国土交通省がお互いに協力して整備されつつあります。ここに来る人に、ここからは文化庁の敷地だから国土交通省の公園としては整備対象外とは、何とも変な感じです。この檜隈寺をどのように整備していくのかということも公園計画機関がリーダーシップを持って取り組んでほしいと思います。

(平野委員長)

ただいまのご指摘も、今回の体験的歴史学習の構想を考えるにあたって、十分踏まえて結論を出していくことになるであろうと思います。先ほど私も申し上げましたように、新たな発掘で出てきた事実をより慎重に受け止めて、それによって基本計画も場合によって変更していく、それに基づいた計画に直していくことが当たり前のことがこの公園の性格でございますので、十分に検討していきたいと思っています。

(木下委員)

猪熊委員のご意見に賛成だという意見をお伝えしたいと思ったのですが。

(平野委員長)

後ほどもう一度お願いできますでしょうか。非常に中身として大事なことに入ってきたので、今後の展開の中で議論できればと思います。

(2) 体験的歴史学習のテーマ・内容について（討議）

（事務局より資料8について説明資料に沿って説明）

（舟久保所長）

資料8について補足説明させていただければと思います。本日は第1回目の議論ですので、体験的歴史学習の頭に何を据えるのかを決めたいと考えています。それについてはテーマ（案）ということで示させていただいておりますけれども、実は資料6を見ていただくと分かるのですが、基本計画の際に検討していた内容です。資料6の5ページ目の「基本計画策定時における体験的歴史学習の検討」には、同じような資料が載っています。この時は検討はなされていたわけですが、公表する基本計画には書かれていなかったのので、改めて今回の委員会の中でこのテーマを確定したいと考えています。先ほど報告の中で関連動向をご報告させていただきましたが、大きなテーマは基本計画策定時と変わらないだろうというところを改めてご確認いただきたいというのが1つ目でございます。

そして、具体的に何をするのが資料8の2番目の学習内容になります。一つは「渡来人のもたらした技術・文化」を伝えることをしようということで、もう一つは国営公園ができた背景ともかかわることですが「飛鳥の歴史的風土の保全」をテーマに内容を展開していこうと考えています。資料8の3ページにありますように、「渡来人のもたらした技術・文化」は「渡来人の足跡」「渡来人のもたらした技術・文化」に分けられるのですが、先ほどの視察でもご説明させていただいたとおり、この地区は渡来系の東漢（やまとのあや）氏の居留地であるわけですが、住んでいた方々が実際に飛鳥京を造り出すところの大陸の技術と文化を伝えたということから、場所としては居留地ですが、住環境だけにこだわらず、より話を膨らませて渡来人がもたらした技術と文化を具体的に展開していくことを考えています。先ほど関連施設との役割分担の話をしました。私どもの公園は敷地が狭いわけではありませんが、屋外・屋内で様々なフィールドがあり多くの活動が展開できると考えています。技術・文化につきましては住んでいただけでなく、その方々が取組んでいたことを取り入れることもあるのではないかとこの考えから、3ページ目の学習項目には様々な項目を挙げています。このところがこれから各施設で何をするのかということに関わる部分ですので、第1回目ですので幅広く「もっとこういう展開があるのではないかと」という話があればご意見いただければと思います。

また、もう一つの「飛鳥の歴史的風土の保全」についてですが、実際に飛鳥を訪れる人が飛鳥の何を評価しているかというのは、歴史の地であるとともに今ここにある景観が非常に素晴らしいということが評価されています。これは、地元の方が携わってそういうことが生かされているということがありますので、地元の方たちと連携をしながら農作業の体験や林業の体験など、今のまさに飛鳥の風景を生んでいることを継承していくことについても体験的歴史学習の中で取組んでいきたいと考えています。

資料8の4ページについてですが、次にそういった学習内容をどういった形で展開していくのかということについて、今日の第1回目の議論では、実際に何をするのかということと、どういう手法で持って取組むのかについて幅広くご意見をいただきたいと思っております。ここでは例として「展示・解説」「史跡案内」「体験学習」を挙げているのですが、

このレベルで、またさらにもう少し細かいレベルで貴重なご意見あると思いますし、屋外でやるのか屋内でやるのか、関係機関と調整して行えばいいのかなどいろいろあると思いますので、ご意見いただければと思います。

5ページ以降は、実際にどのような内容のことをどういった手法でやるかといった際に、それをどこでやるのかという議論になるので、基本的には次回以降の議論になるかと思っています。内容・手法についてご議論いただいたものを取りまとめて、それをどこで展開するのかについては主に次回以降に議論させていただきたいと思っています。しかしながら、事務局で基本計画の段階で個別施設においてどのようなことをするかについて検討してきたこともございますので、最後ご紹介させていただきました。

(平野委員長)

今回は、主として基本的なテーマとどうやって展開していくのかということに絞ってご議論していただければとのご説明でした。

私自身、檜前の扱いが基本計画の段階ではまだ弱かったのではないかとところが多少気になっています。そのあたりを今後どう展開していくのかということが今後かなり大きなテーマとして取り上げなければならないことではなかろうかと思っております。

先ほどの話に関連して木下委員よりご意見いただければと思います。

(木下委員)

先ほどの話は基本計画の中に盛り込まれていたようなので触れませんが、檜前を中心としたこの地域には、飛鳥時代に限定されない、先ほどの猪熊先生の話にもありましたように、5世紀からヤマト政権によって渡来人が入植されて開発が進んできたという前史があります。そういった前史が少なくとも平安時代まで間違いなく継承されている地域です。それが7世紀中頃前後、天皇家を中心とした陵墓の地としても位置づけられています。その2つの特性に立脚した計画が必要であり、明確にその特性を位置づけていくことが必要かと思えます。盛り込まれているようですが、何か位置づけが曖昧かなという感じがいたしました。

それと同時に、飛鳥の歴史空間の中での檜前はどのような地なのかという位置づけについても全体の中で明確にした上で、地域の特性を公園の歴史体験に位置づけていく方向性が必要ではないかと思えます。飛鳥の歴史空間の中での檜前地域ということは、十分意識されなければならないと思えます。

もう一つは、大陸系や渡来系の文化を拾い上げていくと、日本における中国的なもの朝鮮半島的なものを拾い上げることに終始してしまう恐れがあるのですが、大壁建物の周辺の掘立柱の発見も示唆的であり、日本化していく、どんな風に融合が図られていくのかということも背景に盛りこんでおかないと、かえって飛鳥文化の理解を損なう恐れがあるということが気になりました。どうすればよいという名案はございませんが、考えていく必要のあることだと思います。

(三輪副委員長)

先ほど猪熊委員や木下委員がおっしゃったことに私も基本的に賛成するのですが、少しだけユーザーの立場になってみたときに、今回の檜前のこの地域は、高松塚等他の地域はか

なり整備が進んでいますが、ユーザーの立場から見てそれらしい選択のできる場所であることが大切かと思います。どこにいても同じという歴史展開ではなく檜前はこの地域、キトラはこの地域という特性を正面にしっかり掲げることが際立った整備になるのではないかなと思います。全体論で言えば、繰り返しになりますが、ユーザーの立場から見る飛鳥を、一度は議論しておく必要があるのではないかという気がいたします。

体験的歴史学習は簡単なようでなかなか難しいものですが、それを正確に展開しようとしたときには、原案にも少し書かれていましたが、おそらく地域との連携が不可欠であると思います。私は「市民と共生する」という言い方をしてきたのですが、市民と共生できる場所、共生型の整備や公園づくり、歴史を使った市民との共生のあり方というところを少し深めていく必要があると思います。そのためには、ボランティアを使って展開するという意見もあり、このことについて私ももちろん大事だと思っているのですが、もう一つ大事なことはエドゥケーターについて全く触れていないことだと思います。ボランティアの方たちの活動、市民の方たちの活動は非常に大事ですが、これだけの大規模なもので、それも歴史を背景としたもので、私たちだとミュージアムエドゥケーターという言葉になりますが、そのようなエドゥケーターを最初からしっかり全体構想の中に設定することが計画の推進に非常に大事なことはないかと思います。

大変盛りだくさんの計画で、これをこなすのはとても大変だと感じていますが、見事なエドゥケーターがいて、ボランティアの人たちを十分使いこなしてしっかりやっていくという形だと思います。したがって、計画の細部よりも、むしろ私はエドゥケーターをしっかりどう位置づけていくことが大切で、実は日本の場合エドゥケーターはほとんど育てていないですしほとんどいないので、現実的には飛鳥方式でも何でも良いのでこの地域らしいエドゥケーターの作り方というのを事務所のほうでぜひ工夫していただく必要があると思います。他の地域のことをまねる必要はないと思いますし、ここ独自のそういうものをつくり上げていくことが大事だと思います。そういったことを、先ほどから説明を伺っていて感じました。感想です。

(平野委員長)

ありがとうございました。ぜひ計画の中で、体験的歴史学習の基本構想ですので、その中で明確な位置づけを考えて欲しいと思います。

(八丁委員)

展開方法ということでいろいろなゾーンを設けられていますが、特にここでユニークだと思うものが生活体験ゾーンかと思います。生活体験ゾーンでも、単発的な技術を伝える、お客さんが1日来て1日で終わってしまうような体験が一つにはあり、それはそれほど手間もかからず難しいものではないと思うのですが、ここに書かれているような「田園環境保全ゾーン」などで農作業等をずっと行うとなると、1日来て「田植えを少しやりましょう」「稲刈りを少しやりましょう」という形で歴史体験としてしまうのか、継続的に少なくとも1年間ずっと来る人を対象としたプログラムを組んでいくのかで少し変わってくるかと思います。

前者だと管理人がいて作っているところにお客さんが来て体験するという形で、後者だともう少し長期的にオーナー制のような形である程度自主的に行ってもらおうという形になり、かな

り違ってくるかと思います。そのあたりの整理が必要だと思います。

(平野委員長)

ありがとうございます。中身の検討の段階で考えていく必要があると思います。おそらくこの施設の中で宿泊施設は困難ではなかろうかと思いますが。周辺との関係もございませし、周辺の中で受け止めていくことも当然考えていかなければならないわけですが、宿泊をして体験をするということがどこまでこの計画の中で取り込めるかということも一つの検討材料かと思ひます。

(足立委員)

今の意見と非常に関連すると思うのですが、私はこの中では専門家ではありませんが、こういった機会をいただいて、いろいろなお話を伺う中で段々分かってくる、感じるようなことができるようなことがあります。

例えば、飛鳥に何も知らないで来たときに、まずは「里山の風景や田園の風景がきれいだな」と感じ、歩いて「いいなあ」と思ひ、ほかのところに行っても「きれいだな」で終わってしまひます。そこで、エドゥケーターと先ほどおっしゃったことと関係するかと思うのですが、いろいろな知識をいただくと、自分なりに想像していくことができます。本日も木下先生から渡来人の話をいろいろ伺って、自分の中で妄想が非常に広がって行って、「こういう人がこういう場所で暮らしていたのだ」ということが膨らんでいきます。そして、膨らんだ中で、今の農の風景と妙に重なってくることもあり、そのときに初めて飛鳥の風景が意味を持てきます。

このような私自身の実体験からすると、おそらく作物を作ってこの地域に関わっていくことも良い機会だと思うのですが、もう一つ、1話完結型の体験学習だけでなく、だんだんわかっていく、素人の方でも何回が来ているうちに深めていくことができるようなものがないのかなと思ひます。おそらくそういう形のは今までなかったと思ひます。何か良い体験をして帰るといふ繰り返しのようなのですが、だんだん分かっていくというその人の発達に依じて楽しめるようなものができればなと思ひます。そうしたときに、おそらくここだけではできないと思ひるので、初めて他の施設とどういふ風に連関していくか、ここは何を担えるのかということが考えていけるのではないかと思ひます。

非常に気になったのは、県が歴史展示ということで万葉文化館でも様々なことをされていますが、国土交通省は国土交通省、県は県というやり方ではない方法があるかと思ひますし、これから文化庁が檜限をどうされるのか分からないですが、それとも上手く絡めていくきっかけにもなると思ひます。私自身のテーマでもあるのですが、だんだんはまっていく、感性を磨いていくという手法をこの機会にできないものかと思ひます。

(平野委員長)

ありがとうございます。体験がここだけの体験でとどまらないうで拡大していくことかと思うのですが、そういう意味では非常に大事なご意見だと思ひますし、ここでどこまで実現できるかだと思ひます。県での取組みについて少し教えていただけますでしょうか。

(森藤協力委員 (代理：梅野課長補佐))

奈良県の梅野と申します。今、足立先生のほうからおっしゃっていただきましたように、奈良県では、施設の役割について、「明日香における歴史展示のあり方」を考える中で検討しています。大きくは飛鳥資料館、キトラ古墳周辺地区、万葉文化館のそれぞれに特色を持たせようということを検討しており、資料7の5ページにペーパーを付けさせていただいております。

少し資料の説明になりますが、「明日香における歴史展示の推進」ということで、明日香の価値である「国家基盤の形成された地」であることを奈良県明日香において示していければよいという形で考えております。今年度6月、8月、11月の3回検討会を行わせていただきまして、「明日香における歴史展示等のあり方基本方針」を作らせていただきました。これにつきましては今後発表していく予定をしておりますけれども、その中で「歴史展示の推進」の中の「歴史展示の手法」において「展示施設の役割分担」ということで、万葉文化館を今後「歴史の総合展示施設」とするとともに「明日香のゲートウェイ」として整備していこうと考えております。そのほかに飛鳥資料館では歴史物の総合展示施設として明日香村における出土品等の歴史物を総合的に展示する施設という形で役割分担・棲み分けをさせていただいております。また、キトラ古墳周辺地区におきましては、歴史を体験学習する施設として歴史物の鑑賞をはじめ各種体験を通じ歴史を学習する施設という形であり方の基本方針を考えさせていただいております。ですから、棲み分けをしてそれぞれ特色のあるものを施設として作っていきたいと考えておりまして、奈良県も国や村と連携を取らせていただいて、進めていくつもりであります。

今回このような形で議論させていただいておりますので、それを進めていただくことは奈良県が考えておりますあり方に沿うものとして非常にありがたいことであると考えております。今後またいろんな形でお世話になるとは思いますが、よろしく願いいたします。

(平野委員長)

基本的に同じような方向で進んでいるということでございます。

(猪熊委員)

今のご説明に異議を唱えたいのですが、先ほどの資料7の5ページの上の真ん中あたりに『歴史物の展示』はあっても、『歴史の展示』が不十分」とあり、飛鳥資料館で私が担当して展示したものが掲げられています。飛鳥資料館は最も歴史的展示を重視した展示をしたつもりであります。前庭のところにそれを復元して、古代にはどのようにして考えられてきたのかということをちゃんと説明してあります。いろんな情報を集められずに知事さんのお名前まで申されてこうした場で強調されるのは慎んでほしい。後で詳しくご説明ください。また、当時これを作ったときに、NHKで古代の人がどのようにこれを見ていたかという番組を作っていただきました。後日DVDをお届けしたいと思っておりますので、知事さんにゆっくりとご覧になっていただくようお願いいたします。

(平野委員長)

ありがとうございました。いろいろなご意見があるようですが、県の方でも具体的な対応をしていただければと思います。

(吉兼委員)

今明日香村に住んでおりますので、地元でボランティア活動をしている立場から一つありがたいことがあります。これが絵に描いた餅ではいけないのですが、地元と共生したい、一緒にやりたいということを標榜されていまして、こういうものは開園するまで地元には全く情報が流れないのが普通なのですが、資料に開園前イベントプログラムという開園前から地元の人と一緒にやってこの中で様々なことをやり、その成果からいいものをコンテンツにしていこうという姿勢があるのではないかと思います。

私は観光学に取り組んでいますが、観光学で最近私は、「関係の観光学」という、対象が大事なのではなく、対象と見た人がどういう関係を取り結ぶか、その関係を深くしていくことが大事だと考えています。そういった点でも、突然ある日何か公園ができるのではなく、そのできる過程の中で様々な人と関わりあいながら、様々な関係があって、その関係が結果としてはそれを維持したり深めたりしていくということを考えられて、こういうプランを作られている点は非常に評価すべきだと私は考えていますので、これを決して絵に描いた餅にしないで欲しいと思っています。

先ほどの共生という点で申しますと、既に公園が持ってらっしゃる里山クラブや、観光ボランティアガイドがいらっしゃるの、そういった方がエデュケーターの中心になっていただければと思いますが、同時に明日香村は財団も含めて各大学との包括協定を結びながら活動するようにされていますし、たくさんの知的レベルの高い観光客も来ていますので、そういった方も持続可能な形のこういう関係を深めながらやっていくことで、ぜひエデュケーターの養成も考えていただきたいと思います。

(平野委員長)

ありがとうございます。貴重なご意見かと思えます。ご指摘のように、この公園は6年後に開園になりますが、6年前にこういう議論をされています。基本計画にもこういったことが書かれており、地域との関係を大事にしてその中で積み上げていくことを前提に出発していると思えますので、おそらく吉兼先生がおっしゃったことが絵に描いた餅ではなくて実際に行われていくであろうと期待しています。

(三輪副委員長)

将来的な問題ですが、明日香村の全体計画の一つの中に、世界遺産との関係があるかと思えます。まだまだこれから煮詰めなければならない幾つかの課題を抱えているわけですが、そうした流れとも呼応できる計画でなければならぬだろうと思えます。世界遺産の取組みは県を中心としての提案、文化庁のまとめ方という流れではありますけれども、ぜひそのところとの調整を十分にやっていただきたいと思えます。おそらく世界遺産の一つの評価は遺跡や遺構だけの問題ではなく、それを管理していくシステムを非常に重要視しているのが近年のあり方かと思えます。吉兼先生がおっしゃいましたが、ボランティア等との問題について、私が強調したいのはここらしいボランティアであり、日本中のボランティアは地域一つずつ全部個性があって良いと思うので、金太郎飴ではない飛鳥らしい特性を持ったボランティアであることが

大事かと思えます。世界遺産ではそういったこともおそらく評価の対象となっていて、一つの課題だと思えます。そういう計画を見落とすことなく、ぜひ調整を取っていただきたいと思えます。

(平野委員長)

ありがとうございました。世界遺産関係でご報告いただくことはありますでしょうか。

(木下委員)

飛鳥・藤原京が骨格となる世界遺産としての概念に関連することが資料の中にも入っていますが、現在は、世界遺産専門委員会では世界の中で唯一無二の価値を持っているという普遍的価値の検討を中心に進めています。現在、大方の骨格ができてきた状況です。専門委員会の下にワーキンググループがあり、ワーキンググループの中で保存管理計画の検討が進められていますが、専門委員会ではまだ取り上げる段階に至っていません。普遍的価値について外国の関係者に意見をいただいて、再度検討する計画で、来週の 28 日に国際シンポジウムを開催し、そこでいただいたご意見を整理する形で、普遍的価値の位置づけはおおよそ決まるのではないかという状況です。

(平野委員長)

ありがとうございました。世界遺産のお話もございましたが、素晴らしい資源であることは間違いのないわけがございます。この委員会としては、いかに資源を生かし地域と共生できるキトラ古墳周辺地区として整備していくことが重要であろうかと思えます。

(岡本委員)

私は壁画については専門外なのですが、一般の立場からすると、この施設をもって知的好奇心をくすぐるようなことを期待しているわけです。高松塚古墳には壁画館という非常に良い施設がございますし、あれ以上のものとして、キトラ古墳では古墳の寸分変わらないレプリカをここにつくっていただいて一般の人が全体の雰囲気を感じたいと思います。本物をどうするかという議論があるところではありますが、世界的にみても本物は横に置いておいて、実際に書かれたものを触ることができ、またそれが屋内施設であれば、シーズンオフとオンの差や雨のときどうするかという大きな問題に対して、いつ来ても古墳がどういうものか分かるものになると思います。

また、先ほど宿泊施設の話もありましたが、宿泊施設は無理だと思いますが、祝戸荘の方でも衣装や古代食などの取組みをされていますが、ここでも食事のできるレストラン程度はつくっていただけるとよいのではないかと思います。

また、あと少し話はずれるかもしれませんが、村全体としては場所的に離れていますのでそれをカバーするような、環境に配慮したハイブリッドバスなどについても構想の一番最後あたりにでも少し書いていただくと、たくさんの方が来て便利に楽しんでいただける場所になるのではないかと思います。

(平野委員長)

ありがとうございました。キトラ古墳そのものに関しましては文化庁の委員会でご検討もされているわけですので、その結果を踏まえてこの中で対応できるものはしていきたいということになるかと思えます。最後におっしゃったバスの問題は、この地域のこの公園のバスというよりは、明日香全体としてどうするかということかと思えます。交通については明日香村でもこれまでに様々な調査をされてきたかと思えますが、最近何かされたことはございますか。

(関委員)

5、6年前に国土交通省運輸局の社会実験として「かめバス」を運行し、現在も地域コミュニティを支えるバスとして利用いただいています。ただ、基本的に明日香村は全村が公園であるという観点から、車両スピードは20-30kmでよいのではないかと考えており、そうするとガードレールも交差点の信号もいらないですし、公園の中の園路のようなものがつくれたら一番ありがたいと考えています。県道は幹線道路として今の交通安全の体系にあったものでよいだろうと思えますが、明日香村は駅に行くにも5分10分もかからないので、明日香らしい計画ができればありがたいという思いがします。

また、明日香村では戸数は減っていないが、人口が減っています。少子高齢化のために小学生、中学生を一つの学校でまかなっていかないと運営的に難しい、施設のにも大きすぎるということもあります。子どもたちが住める、若者が住めることが大事で、明日香村だけではないかもしれませんが、農業、産業自体が疲弊したのですが、この村は山奥の過疎地ではないので、やり次第では明日香らしい職場というのも可能であると思えます。明日香村は何が何でもダメだという凍結的保存を20年ほど行い、相当な良いものがたくさん残って、素晴らしい資産を持っている村だと思っていますが、資産を活用できないでただ眺めているだけでは住民がいなくなるだろう、住民がいなくなると村全体が疲弊してしまっ保存も何もなくなってしまうだろうと思えます。

一時期、明日香は廃墟の村であるとおっしゃった学者の方もいらっしゃいましたが、私はそういう形になると明日香法全体、それを管理していただいている国土交通省の失敗につながるのではないかという思いもします。文化財、自然環境、景観等々を生かしていただける明日香らしい産業のあり方があって、別に泥臭い生き方でもかまわないので子どもたちの職場があるようにならないと最終的に失敗につながるのではないかなという思いがしますので、一つ明日香らしいところを議論いただきたいと思えます。

(平野委員長)

ありがとうございました。生き生きとした村であるということがこの公園で史跡を生かすことのベースとして非常に大事なことだと思います。先ほど足立委員がおっしゃった、発展していく発想も地域そのものがいきいきとして生きていなければそういう発想にはつながらないと思えます。この遺跡だけでなく地域が生きていく環境をつくるという基本的な姿勢は常に持って欲しいと思えます。

(木下委員)

少しお伺いしたいのですが、先ほど現地で見せていただいた大壁建物の北側に掘立柱建物の相当立派なものがあるのですが、そのあたりがテニスコートの関係で遺構の一部を削らなければならないという状況があるということをお伺いしたのですが、それは本当かどうかということと、どんな対策をとられるのか、原則は歴史公園ですので遺跡を壊すことがあってはならないことをきちんと押さえた上で、計画を立てるあるいは計画変更するべきだと思いますので、そのあたりの現状について教えていただきたいと思います。

(三井課長)

キトラ古墳周辺地区とつながった形で村の近隣公園が設置される予定がありまして、そちらの方のテニスコートのことかと思えます。

(藤田協力委員)

削平をする、削り取ってしまうということは一切ないように内部で調整をしたいと思っておりますし、それらを回避できるような手法をもって調整を進めたいと思っております。

(平野委員長)

ありがとうございます。檜隈寺の周辺では居住の跡しか出てきていないのでしょうか。何か作業をしたとか、作業したものが残っているなどの発見はないのでしょうか。

(宮原協力委員)

この調査の詳細については明日香村教育委員会の相原さんをお願いしたいと思います。

(随行人：相原明日香村教育委員会調整員)

発掘調査につきましては、奈良文化財研究所、橿原考古学研究所、明日香村の3者が区域を分けて調査を進めています。檜隈寺の伽藍のある辺りからはお寺に関する建物や堀等の遺構が見つかっており、その周辺ではお寺に関わるものづくりの場である工房も一部見つかっています。さらに、先ほど大壁建物の話がありましたが、檜前遺跡群では、大壁建物、掘立柱の建物が見つかり、居住空間にあたると思われると考えられています。現在までの調査ではそういったものが調査で見つかっています。

(平野委員長)

ちょっと気になっているのは、体験的歴史学習を行おうとしますと、ものをつくったりする体験学習が入ってくるかと思うのですが、それをこの地域でやっていいのかどうかということですね。この公園での体験学習については、いろいろな中身が書いてあるのでお分かりの通り、この場所だけのことを言っているのではなく渡来人のということでもいろいろなことが考えられているわけですが、そのうちの現実につくるような体験学習をここでやっていいのかについてはどうなのでしょう。今後の課題なのかもしれませんね。例えば、飛鳥池でああいうものが出ているからそれに相当するものをここでつくっていいのかという話になるわけですが、そう

ということが文化財からの関係でいいのかどうかというところはどのようなのでしょうか。

(猪熊委員)

今、予定されている場所は檜隈寺に隣接していますから、もう少し他に移していただいた方がよいと思います。

(平野委員長)

駄目ですか。例えば、今の大壁の住居が出たところからは少しは離れるわけですね。

(猪熊委員)

先ほど現場で「渡来人村を復元するのですか」と申したところ「その計画はありません」と言われたのでありますが、もう少し他の場所で体験学習をした方がよいと思います。渡来人の技術は、当時の先端の機織や鋳造、造瓦などいろいろなものがありますので、渡来人の技術を体験するということには賛成であります。もう少しほかの場所に移していただいたほうがよいと思います。

具体例としては韓国の扶余に百濟村が復元されておりまして、そういうものがセットで再現されていますので、ご参考にされたらと思います。

(舟久保所長)

今、猪熊先生がおっしゃられた、ここではどうかというお話は、図面に書いてある場所ではどうかというお話でしょうか。

(猪熊委員)

はい、檜隈寺の南側のことです。

(舟久保所長)

こんなに近いところでやるのはどうかというお話でしょうか。

(猪熊委員)

あの場所は高台で一番目立つ場所なのですね。そこで技術のセンターをつくってしまうのではなく、シンボリックな檜隈寺というものをつくりだすほうがよいのではないかと思います。そちらでご検討していただいて、どうしてもこの場所で見せたいのだと言われたらそれはそれとしてよいのでしょうか。

(舟久保所長)

そもそもキトラ古墳周辺地区で取組むべきではないということではないですね。

(猪熊委員)

キトラ古墳周辺は渡来人の居留地でありますから、当然工房もあったのだらうと思います。

工房の計画地は檜隈寺の南で、本来、目立たない作業所が寺の南になり、目立ちすぎて不適當だと思ひます。明らかなところで復元すべきことではないかと思ひますが。

(三井課長)

A3の図面で言ひますと、体験工房と書いてある部分が檜隈寺跡の南の部分にあたるわけですが、この場所を再度検討してはどうかということでしょうか。

(猪熊委員)

現在は計画段階ですから、ここにこだわる必要はないかと思ひのですが。

(三井課長)

施設がいくつか園内に展開されるわけですが、機能について体験的なものを何かやっけていく場所をつくることであれば、ここに限らずこの地区の中の他の施設で展開すればどうかということでしょうか。

(猪熊委員)

例えば、登り窯の窯跡を再現するならば、傾斜面が適していますし、ここは丘陵の頂上で、煙がもくもくと出てくることも考えられます。

(三井課長)

分かりました。公園内および公園外を含めていろいろな検討をしていく必要があるかなと思ひています。

(平野委員長)

今回の検討では、中身を詰めていき、それに伴う施設をどうするかということも今回の課題になっています。そういう意味では議論し検討すべきことかと思ひます。

今日は貴重なご意見をありがとうございました。第1回目ですので、特にまとめることはせず、本日のご意見を踏まえて事務局のほうで次の委員会に向けて資料を整理していただければと思ひます。

7. 閉会

(三井課長)

次回は4月以降に開催したいと考えております。改めてご案内をお送りしますので、どうぞよろしくお願ひいたします。